

守山市との漏水検知実証継続に関する取り組みが水道産業新聞に掲載

異音検知 AI によるインフラメンテナンス DX に取り組む Hmcomm 株式会社（本社：東京都港区、代表取締役社長 CEO：三本 幸司、以下、Hmcomm）は、滋賀県守山市と共同で進めている AI による水道管漏水検知に関する取り組みが、水道業界専門紙である「水道産業新聞（2026年4月20日付）」に掲載されたことをお知らせいたします。

音響解析 AI で漏水検知

Hmcomm 社会実装へ守山市と実証継続

AI音声処理技術を基盤とした要素技術の研究・開発やソリューション・サービスの提供を行う Hmcomm（本社：東京都港区、三本幸司・代表取締役社長 CEO）は、滋賀県守山市と共同で進めてきた AI による水道管漏水検知の実証実験の成果を踏まえ、今年度も実証を継続し、社会実装に向けた次フェーズの取り組みを進めることを発表した。今回の取り組みは、同社の強みである音響解析 AI 技術（音×AI）を活用し、水道

管から発生する微細な漏水音を AI が検知・分析することで、漏水調査の高度化・効率化を目指すもので、守山市との実証で AI を活用した漏水検知の有効性が確認された。同社は守山市と連携し、実運用環境での検証拡張と社会実装に向けた取り組みを進めていくこととしている。

水検知プロセスの実現可能性を確認」といった成果が得られ、水道インフラ分野における AI を活用した新しい維持管理手法の可能性が確認された。

今年度の実証では、社会実装を見据え、▽実運用環境での AI 漏水検知の検証拡張▽AI 判定精度と運用効率のさらなる向上▽水道インフラにおける AI 活用モデルの検討▽に取り組み、AI を活用した次世代型の水道インフラ管理モデルの確立を目指す。

今回の実証プロジェクトは、守山市が実施する「官民連携プロジェクトサポート事業」の一環として採択された。昨年7月から今年3月までの期間、同市と連携した実証・検証を進めてきた。

森中高史・守山市長は「老朽化が進む水道をはじめとするインフラへの対応は重要な行政課題の一つであると認識しています。2025年度の実証により、AI を活用した新たな維持管理手法の可能性が確認され、社会実装に向けて大きな期待を寄せています。引き続き、官民連携プロジェクトの中で市役所もしっかりと伴走支援しながら、持続可能なインフラ管理の実現に向けて取り組んでまいります」とコメントしている。

当社は今後も自治体や関連機関と連携し、AI 技術を活用したインフラ維持管理の高度化に取り組み、持続可能な社会インフラの実現に貢献してまいります。

■ **H m c o m m**株式会社について

代表取締役社長 CEO 三本 幸司

URL <https://hmcom.co.jp>

設立日 2012 年 7 月 24 日

所在地 東京都港区浜松町 2-10-6 PMO 浜松町III4 階

事業内容 人工知能（AI）音声処理技術を基盤とした要素技術の研究・開発およびソリューション/サービスの提供

<本リリースに関するお問合せ>

報道関係者様： **H m c o m m**株式会社 IR 担当 hm_ir@hmcom.co.jp

企業様： **H m c o m m**株式会社 営業統括部 sales_team@hmcom.co.jp

TEL：03-6550-9830 FAX：03-6550-9831